





ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術までを幅広く理解し、広い視点と高い倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。</li> <li>電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。</li> </ul>																99 単位																									
配当単位数合計		13 単位				20 単位				14 単位				10 単位		12 単位		6 単位		8 単位		8 単位		8 単位		99 単位																	
M2	M1	● 必修科目		不問講科目		グローバルテクノロジー特論b		1		エンジニアリング・コミュニケーション特論		1		ソフトウェア工学特論		2		エネルギー・環境工学特論		2		エネルギー変換工学特論		2		99 単位																	
		材料・デバイス開発実務特論		3		ロボティクス特論		2		CAD/CAM特論		2		半導体エレクトロニクス特論		2		パルスパワー工学特論		2		電力工学特論		2			材料設計工学特論		2		加工工学特論		2										
M2		M1		グローバルテクノロジー特論a		1		航空宇宙工学特論		2		自動車工学特論		2		表示デバイス工学特論		2		光機能工学特論		2		パワーエレクトロニクス特論		2		最適システム工学特論		2		振動工学特論		2		内燃機関特論		2		機械制御特論		2	
分野		数理科目		学際科目		専門横断		分野		M2		M1		分野		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械工学		熱・流体		設計・製作		年間履修上限単位数なし													
カリキュラムポリシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容的に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。</li> <li>「専門横断」では、研究分野の専門知識・技術を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。</li> <li>「共通横断」では数理科目・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな視点に立った的確なものの見方と考え方を確立する。</li> </ul>																																									
アドミッションポリシー		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを習得し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまない学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</li> <li>自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人</li> <li>人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人</li> </ul>																																									
ディプロマポリシー		<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜工学部＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく在学中にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持てる。(関心・意欲) 【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】</li> <li>人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けそれらを活用できる。【知識・理解・技能】 【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</li> <li>専門分野の知識・技能を体系的に理解し、社会・職場での実践に役立てられる知識と能力を有する。【理解・応用・技能】 【専門分野の知識・技能 (3科目以上)】</li> <li>技術者および社会人として必要とされるコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に理解するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。(協働・表現) 【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】</li> <li>社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。(意欲・協働) 【他者との協働による課題解決力】</li> <li>地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に積極的に貢献する行動力がある。【理解・応用・倫理】 【社会に対し積極的に貢献する行動力】</li> </ol> <p>◆注：「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜電子情報システム工学部＞</p> <p>電子情報システム工学部では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学部の基礎と実践力を継承できるように、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 数学や自然科学から情報理論の知識と技能を習得し、(A-1) 数学や自然科学等の基礎知識と応用【A-2】コンピュータによる文章・統計資料の作成ならびに情報処理能力。【文章・統計資料の作成と情報処理能力】</p> <p>(B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて行動できる。(B-1) 人文科学や社会科学に関する幅広い知識を身に付けることができる。【人文科学・社会科学の知識と社会貢献の自覚】 (B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践】</p> <p>(C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎を身につける。(C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】 (C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】 (C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。(D-1) 電気回路などの専門的知識を身に付け活用できる。【電気回路等の専門的知識と活用能力】 (D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアソフトウェアに必要な知識や技術が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】 (D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>(E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。(E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを実行できる。【チームワークによる課題解決能力】 (E-2) きまじな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決能力】 (E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】 (E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】</p> <p>◆注：【】はディプロマ・サプリメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>																																									
分野別到達目標		<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的知識・能力として、広い視野の人文科学的知識に基づき思考・判断力と、言語の知識を応用した円滑なコミュニケーション能力を育成するとともに、自身の成長を促すための自己実現能力を育成する。</p>				<p>工学の観点から社会を積極的に発展させる基礎的知識・能力として、数学・物理や化学や情報理論の基礎的知識を理解・応用し、自然現象や社会現象を定量的に分析・理解し、問題が与えられたときに、実践的知識と協働する能力を育成する。</p>				<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的知識・能力として、広い視野の人文科学的知識に基づき思考・判断力と、言語の知識を応用した円滑なコミュニケーション能力を育成するとともに、自身の成長を促すための自己実現能力を育成する。</p>				<p>電気回路などの専門的知識を身に付け、日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に適用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。きまじな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。</p>		<p>技術者として必要な社会倫理を理解している。</p>		<p>電子・光工学の基礎となる材料物性と電子・光デバイスに関する知識を学ぶことで、実用のシステムへ応用するための知識と能力を身につける。</p>		<p>現代において、身の回りにあるさまざまな装置、機器、組織、制度、方式は多様な機能要素の有効な組み合わせで作られたシステムである。昨今の複雑で困難な数々の問題解決にはシステム化技術が必要であり、その情報は伝達する通信システムに関する知識を学ぶ、習得した知識を実用システムの利用と開発に応用する能力を身につける。</p>		卒業に必要な単位数124単位																					
配当単位数合計		-				-				33 単位				6 単位		24 単位		10 単位		18 単位		91 単位																					
期		-				-				-				-		-		-		-		-		1 単位																			
前期・後期		<p>哲学(2)</p> <p>倫理学(2)</p> <p>憲法(2)</p> <p>文学(2)</p> <p>日本史の歴史(2)</p> <p>法学(日本国憲法)(2)</p> <p>経済学(2)</p> <p>経営学(2)</p> <p>心理学(2)</p> <p>日本の伝統と文化(2)</p> <p>国際関係論(2)</p> <p>日本の文化と社会(2)</p> <p>日本の文化と社会(2)</p> <p>外国・英語Ⅰa(1)</p> <p>外国・英語Ⅰb(1)</p> <p>工学に必要英語基礎a(1)</p> <p>工学に必要英語基礎b(1)</p> <p>キャリア・インテグレーションⅠa(1)</p> <p>キャリア・インテグレーションⅠb(1)</p> <p>キャリア・インテグレーションⅠc(1)</p> <p>英語プレゼンテーションⅠa(各1)</p> <p>中国語コミュニケーションⅠ(1)</p> <p>中国語と現代中国事情Ⅰ(1)</p> <p>生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)</p>				<p>微分方程式Ⅰ(2)</p> <p>微分方程式Ⅱ(2)</p> <p>ものづくりマネジメント技術</p> <p>を高める特論(2)</p> <p>知的財産特論(2)</p> <p>品質管理(2)</p> <p>標準と統計Ⅰ(2)</p> <p>標準と統計Ⅱ(2)</p> <p>宇宙・地球・生命・探究演習(1)</p> <p>工学倫理(2)</p>				<p>線形代数Ⅰ(2)</p> <p>ベクトル解析(2)</p> <p>線形代数Ⅲ(2)</p> <p>線形代数Ⅳ(2)</p> <p>複素解析Ⅰ(2)</p> <p>複素解析Ⅱ(2)</p> <p>応用数学Ⅰ(2)</p> <p>応用数学Ⅱ(2)</p> <p>実践化学(2)</p> <p>地球システムと人間(2)</p> <p>環境生物学(2)</p> <p>人間発達と人間(2)</p> <p>教育概論(2)</p>				<p>インターンシップ(2)</p> <p>グローバルテクノロジー論a(1)</p> <p>グローバルテクノロジー論b(1)</p>		<p>基礎電子回路Ⅱ(2)</p> <p>電子情報システム実験Ⅱ(2)</p> <p>電気回路Ⅱ演習(1)</p> <p>情報通信システム基礎(2)</p> <p>電気回路Ⅱ(2)</p> <p>基礎電子回路Ⅰ(2)</p> <p>電子情報システム実験Ⅰ(2)</p> <p>電気磁気学Ⅰ(2)</p> <p>コンピュータアーキテクチャ(2)</p>		<p>電波・通信法規(2)</p> <p>情報と職業(2)</p> <p>情報社会と倫理(2)</p>		<p>電子回路設計(2)</p> <p>デジタル電子回路(2)</p> <p>電気磁気学Ⅲ(2)</p> <p>アナログ電子回路(2)</p>		<p>半導体デバイス工学(2)</p> <p>光エレクトロニクス(2)</p> <p>半導体デバイス基礎(2)</p> <p>レーザー工学(2)</p> <p>センサー工学(2)</p>		<p>AI・機械学習(2)</p> <p>情報理論(2)</p> <p>コンピュータシステム(2)</p> <p>通信方式Ⅱ(2)</p> <p>ネットワーク工学(2)</p> <p>ワイヤレス通信工学(2)</p> <p>通信方式Ⅰ(2)</p>		10 単位																	
前期・後期		<p>世界と人間(2)</p> <p>文芸基礎論(2)</p> <p>ペーシック・インテグレーションⅠa(1)</p> <p>ペーシック・インテグレーションⅠb(1)</p> <p>外国・英語Ⅱa(1)</p> <p>外国・英語Ⅱb(1)</p> <p>海外留学特論(2)</p> <p>日本語Ⅰ(2)</p> <p>日本語Ⅱ(2)</p> <p>健康体育Ⅰ(1)</p> <p>健康体育Ⅱ(1)</p>				<p>解析学Ⅰ演習(1)</p> <p>解析学Ⅱ(2)</p> <p>解析学Ⅲ演習(1)</p> <p>解析学Ⅳ演習(1)</p> <p>線形代数Ⅰ(2)</p> <p>線形代数Ⅱ(2)</p> <p>物理Ⅰa(2)</p> <p>物理Ⅰb(2)</p> <p>物理Ⅱ(2)</p> <p>物理Ⅲ(2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>化学(2)</p> <p>地球科学(2)</p> <p>生物科学(2)</p> <p>基礎情報処理Ⅰ(1)</p> <p>基礎情報処理Ⅱ(1)</p> <p>応用学Ⅰ(1)</p> <p>開発プロセス基礎演習(1)</p>				<p>キャリアデザイン(1)</p> <p>OIT概論(1)</p>		<p>基礎電子回路Ⅱ(2)</p> <p>電子情報システム実験Ⅱ(2)</p> <p>電気回路Ⅱ演習(1)</p> <p>情報通信システム基礎(2)</p> <p>電気回路Ⅱ(2)</p> <p>基礎電子回路Ⅰ(2)</p> <p>電子情報システム実験Ⅰ(2)</p> <p>電気磁気学Ⅰ(2)</p> <p>コンピュータアーキテクチャ(2)</p>		<p>電波・通信法規(2)</p> <p>情報と職業(2)</p> <p>情報社会と倫理(2)</p>		<p>電子回路設計(2)</p> <p>デジタル電子回路(2)</p> <p>電気磁気学Ⅲ(2)</p> <p>アナログ電子回路(2)</p>		<p>半導体デバイス工学(2)</p> <p>光エレクトロニクス(2)</p> <p>半導体デバイス基礎(2)</p> <p>レーザー工学(2)</p> <p>センサー工学(2)</p>		<p>AI・機械学習(2)</p> <p>情報理論(2)</p> <p>コンピュータシステム(2)</p> <p>通信方式Ⅱ(2)</p> <p>ネットワーク工学(2)</p> <p>ワイヤレス通信工学(2)</p> <p>通信方式Ⅰ(2)</p>		42 単位																					
前期・後期		<p>世界と人間(2)</p> <p>文芸基礎論(2)</p> <p>ペーシック・インテグレーションⅠa(1)</p> <p>ペーシック・インテグレーションⅠb(1)</p> <p>外国・英語Ⅱa(1)</p> <p>外国・英語Ⅱb(1)</p> <p>海外留学特論(2)</p> <p>日本語Ⅰ(2)</p> <p>日本語Ⅱ(2)</p> <p>健康体育Ⅰ(1)</p> <p>健康体育Ⅱ(1)</p>				<p>解析学Ⅰ演習(1)</p> <p>解析学Ⅱ(2)</p> <p>解析学Ⅲ演習(1)</p> <p>解析学Ⅳ演習(1)</p> <p>線形代数Ⅰ(2)</p> <p>線形代数Ⅱ(2)</p> <p>物理Ⅰa(2)</p> <p>物理Ⅰb(2)</p> <p>物理Ⅱ(2)</p> <p>物理Ⅲ(2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>化学(2)</p> <p>地球科学(2)</p> <p>生物科学(2)</p> <p>基礎情報処理Ⅰ(1)</p> <p>基礎情報処理Ⅱ(1)</p> <p>応用学Ⅰ(1)</p> <p>開発プロセス基礎演習(1)</p>				<p>キャリアデザイン(1)</p> <p>OIT概論(1)</p>		<p>基礎電子回路Ⅱ(2)</p> <p>電子情報システム実験Ⅱ(2)</p> <p>電気回路Ⅱ演習(1)</p> <p>情報通信システム基礎(2)</p> <p>電気回路Ⅱ(2)</p> <p>基礎電子回路Ⅰ(2)</p> <p>電子情報システム実験Ⅰ(2)</p> <p>電気磁気学Ⅰ(2)</p> <p>コンピュータアーキテクチャ(2)</p>		<p>電波・通信法規(2)</p> <p>情報と職業(2)</p> <p>情報社会と倫理(2)</p>		<p>電子回路設計(2)</p> <p>デジタル電子回路(2)</p> <p>電気磁気学Ⅲ(2)</p> <p>アナログ電子回路(2)</p>		<p>半導体デバイス工学(2)</p> <p>光エレクトロニクス(2)</p> <p>半導体デバイス基礎(2)</p> <p>レーザー工学(2)</p> <p>センサー工学(2)</p>		<p>AI・機械学習(2)</p> <p>情報理論(2)</p> <p>コンピュータシステム(2)</p> <p>通信方式Ⅱ(2)</p> <p>ネットワーク工学(2)</p> <p>ワイヤレス通信工学(2)</p> <p>通信方式Ⅰ(2)</p>		31 単位																					
分野		キャリア形成の基礎				工学の基礎				数理学と教育				その他連携		分野		基礎		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		システム系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数44単位															
カリキュラムポリシー		<p>＜工学部カリキュラム・ポリシー＞</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目選択を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知能情報および環境工学に関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</li> <li>継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。</li> <li>必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</li> <li>実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・主体的に学修する能力、的確な思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。</li> <li>技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感および倫理観を養う。</li> <li>学士課程教育の充実と卒業研究によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。</li> </ol> <p>◆注：「3」4) 5) 6)」を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>																																									
アドミッションポリシー		<p>電子情報システム工学部は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人</li> <li>電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人</li> <li>自ら進んで学ぼうという意欲のある人</li> </ol>																																									



大学院（博士前期課程）	ディプロマポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。</li> <li>電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。</li> </ul>												97 単位
	配当単位数合計	13 単位	20 単位	配当単位数合計	14 単位	10 単位	12 単位	6 単位	8 単位	6 単位	8 単位	97 単位		
M2 M1	前期・後期	●●：必修科目 □：不問講科目		グローバルテクノロジー特論b 1	エンジニアリング・コミュニケーション特論 1	半導体エレクトロニクス特論 2	ソフトウェア工学特論 2	エネルギー・環境工学特論 2						
		材料・デバイス開発実務特論 3	ロボティクス特論 2	CAD/CAM特論 2	表示デバイス工学特論 2	光機能工学特論 2	通信システム・方式特論 2	パルスパワー工学特論 2						
分野	数理科科目	学際科目		専門横断		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		
		共通横断				エレクトロニクス・情報分野		電機・制御分野		材料・機械工学		熱・流体		
カリキュラムポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。</li> <li>「専門横断」では、研究分野の専門知識・技術を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。</li> <li>「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点に立った的確なものの見方考え方を確立する。</li> </ul>													
アドミッションポリシー	<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまずたく邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</li> <li>自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人</li> <li>人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人</li> </ul>													
ディプロマポリシー	<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜工学部＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持てる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】</li> <li>人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけてそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</li> <li>専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に活用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術（詳細は学科DP）】</li> <li>技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】</li> <li>社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】</li> <li>地域的な分野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】</li> </ol> <p>◆注：「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜電子情報システム工学科＞</p> <p>電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門分野の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能に習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎的知識を活用することができる。【数学・自然科学の基礎知識と応用】A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>(B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて判断できる。B-1) 人文科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模での持続可能な社会を構想することができる。【人文社会・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】</p> <p>(C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力の基礎が身につけている。C-1) 日本語による論理的な表現力がある。【日本語での表現力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での表現力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】</p> <p>(D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識と活用能力がある。【電気回路等の専門的知識と活用能力】D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアやソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に活用できる。【電子・情報通信分野での課題解決力】</p> <p>(E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立ててそれを実行できる。【チームワークによる課題解決力】E-2) さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。【独自の方法での課題解決力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】</p>													
分野別到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく読書・理解力と、言語的基礎知識と正確なコミュニケーション能力を身につけることにより、必要に応じて柔軟な対応ができるよう、実践的・協働的・協働的な態度を醸成する。	工学部から社会人としての基礎的素養・能力として、理工学・工学の基礎知識と実践力を身に付け、専門分野の知識・技能を身に付け、必要に応じて柔軟な対応ができるよう、実践的・協働的・協働的な態度を醸成する。	工学部から社会人としての基礎的素養・能力として、理工学・工学の基礎知識と実践力を身に付け、専門分野の知識・技能を身に付け、必要に応じて柔軟な対応ができるよう、実践的・協働的・協働的な態度を醸成する。	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく読書・理解力と、言語的基礎知識と正確なコミュニケーション能力を身につけることにより、必要に応じて柔軟な対応ができるよう、実践的・協働的・協働的な態度を醸成する。	分野別到達目標	電気回路などの専門的知識を身につけている。日本語による論理的な表現がある。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に活用できる。チームワークで課題解決の計画を立てて実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考えることができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。	技術者として必要な社会倫理を理解している。	電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作りだすシステム技術を構想できる。	情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。	卒業に必要な単位数 124単位				
配当単位数合計					配当単位数合計	35 単位	6 単位	24 単位	24 単位	89 単位				
2 1 4	前期・後期	通年	数学(2)	微分方程式Ⅰ(2)	線形代数Ⅰ(2)	インターシッパ(2)	卒業研究							
		前期・後期	物理学(2)	微分方程式Ⅱ(2)	ベクトル解析(2)	グローバルテクノロジー論(1)	情報と職業 2	メディア情報開発 2	ネットワーク設計 2	情報理論 2				
1	前期・後期	前期	英語(2)	ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2)	線形代数Ⅱ(2)	グローバルテクノロジー論b(1)	電波・通信法規 2							
		後期	経済学(2)	知的財産法概論(2)	線形代数Ⅲ(2)		情報社会と倫理 2	光エレクトロニクス 2	コンピュータシステム 2					
1	前期・後期	前期	社会学(2)	品質管理(2)	線形代数Ⅳ(2)	● エレクトロニクスプラクティス 2		デジタル電子回路 2	半導体デバイス工学 2	デジタル信号処理 2				
		後期	心理学(2)	確率と統計Ⅰ(2)	視座解析Ⅰ(2)	● 電子情報システム実験Ⅲ 2	電気磁気学Ⅲ 2	半導体デバイス基礎 2	電子回路設計 2	コンピュータグラフィクス 2				
1	前期・後期	前期	日本の伝統と文化(2)	確率と統計Ⅱ(2)	視座解析Ⅱ(2)	● 電子情報システム基礎演習Ⅰ 1	アナログ電子回路 2	レーザー工学 2	ネットワーク工学 2	無線通信工学 2				
		後期	国際関係論(2)	応用数学Ⅰ(2)	実用化学Ⅰ(2)	● 電気回路Ⅱ 2	基礎電子回路Ⅱ 2	基礎電子回路Ⅰ 2	電気磁気学Ⅱ 2	通信方式Ⅱ 2				
1	前期・後期	前期	日本の文化と社会Ⅰ(2)	応用数学Ⅱ(2)	実用化学Ⅱ(2)	● 電子情報システム実験Ⅱ 2	電気回路Ⅲ 2	制御工学 2	通信方式Ⅰ 2	電磁気学 2				
		後期	日本の文化と社会Ⅱ(2)	実用化学Ⅲ(2)	実用化学Ⅲ(2)	● 電子情報システム実験Ⅰ 2	固体エレクトロニクスⅡ 2	伝送理論 2						
1	前期・後期	前期	外国語Ⅰ(1)	実用化学Ⅳ(2)	実用化学Ⅳ(2)	● 電気回路Ⅰ 2	電気計測 2							
		後期	外国語Ⅱ(1)	実用化学Ⅴ(2)	実用化学Ⅴ(2)	● 電子情報システム基礎演習Ⅱ 1								
分野	キャリア形成の基礎	工学の基礎	数理科と教育	その他連携	分野	基礎	技術人材育成・資格関連科目	エレクトロニクス系科目	情報通信系科目	年間履修上限単位数 44単位				
カリキュラムポリシー	<p>＜工学部カリキュラム・ポリシー＞</p> <p>工学部カリキュラム・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人文科学、自然科学、情報技術、経営、情報倫理および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</li> <li>継続した学習者として、英語による論理的なコミュニケーション能力を養う。</li> <li>必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の広範囲な知識を体系的に身に付け、特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</li> <li>実験・実習・探求演習（Project Based Learning、PBL）の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。</li> <li>技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</li> <li>学士課程教育の基盤となる卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。</li> </ol> <p>◆注：「3」4) 5) 6)」を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>													
アドミッションポリシー	<p>電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人</li> <li>電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術や学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人</li> <li>自ら選んで学ぼうという意欲のある人</li> </ol>													



ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>電気工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。</li> <li>電気工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。</li> </ul>																			
専攻単位数合計		13単位			20単位			10単位			12単位		6単位		8単位		6単位		8単位		97単位
M2 M1	前期・後期	●●：必修科目		○：選択必修科目		□：選択必修科目		□：選択必修科目		□：選択必修科目		□：選択必修科目		□：選択必修科目		□：選択必修科目		□：選択必修科目		97単位	
		不問講科目		不問講科目		不問講科目		不問講科目		不問講科目		不問講科目		不問講科目		不問講科目		不問講科目		97単位	
分野		共通横断			専門横断			光・エレクトロニクス			情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械工学		熱・流体		設計・製作
キャリア		<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付ける。</li> <li>「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。</li> <li>「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点に立った的確なもの見方と考え方を確立する。</li> </ul>																			
アドミッション		<p>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまない学生を求めている。</p> <p>（求める人物像）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</li> <li>自然環境と共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人</li> <li>人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人</li> </ul>																			
ディプロマ		<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に開げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜工学部＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を保持できる。【関心・意欲】【主体的な学修学習を継続する意欲と関心】</li> <li>人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</li> <li>専門分野の知識・技能を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に活用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技能（詳細な学習内容）】</li> <li>技術者および社会人としてよきコミュニケーション能力を備え、他者との意見・意向を正確に理解するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】</li> <li>社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】</li> <li>地球規模の視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に積極的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】</li> </ol> <p>◆注：「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜電子情報システム工学科＞</p> <p>電子情報システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学位として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>【(A) 数学や自然科学ならびに情報技術の基礎的知識と技能を習熟している。A-1) 数学や自然科学等の基礎的知識を応用することができる。【数学・自然科学の基礎的知識と応用力】A-2) コンピュータによる文書・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文書・統計資料の作成と情報検索能力】</p> <p>【(B) 国際社会への貢献を促し、技術倫理に基づいて行動できる。B-1) 人文科学や社会科学に関する幅広い知識を持ち、地産地消や持続可能な社会を構築することができる。【人文科学・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解・実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】</p> <p>【(C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己実現力の基礎が身につけている。C-1) 日本語での論理的な表現ができる。【日本語での論理的な表現力】C-2) 外国語での社会的なコミュニケーションができる。【外国語での社会的なコミュニケーション能力】C-3) 技術的習得を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的な内容の伝達能力】</p> <p>【(D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識を応用して活用できる。【電気回路の専門的知識と活用能力】D-2) 電子デバイスや情報処理、ハードウェアソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に活用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】</p> <p>【(E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを実行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) まざまな解決方法がある課題を独自の方法で解決することができる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) とえられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】</p>																			
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養と「読解・理解」力、言語的・論理的思考力、自己表現力、協働力、国際的視野を兼ね備えた専門的知識と技能を身に付け、他者との協働による課題解決力や実践力、社会貢献力、国際的視野を兼ね備えた専門的知識と技能を身に付ける。			数学や他の自然科学の基礎的知識と技能を習熟し、応用することができる。【数学・自然科学の基礎的知識と応用力】			グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養と「読解・理解」力、言語的・論理的思考力、自己表現力、協働力、国際的視野を兼ね備えた専門的知識と技能を身に付ける。			電気回路などの専門的知識を身に付けている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションや実践力がある。【電気回路などの専門的知識と活用能力】D-2) 電子デバイスや情報処理、ハードウェアソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野での知識・技能と活用能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に活用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】E-3) とえられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】		技術者として必要な社会倫理を理解している。		電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作りだすシステム技術を構築できる。		情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。		卒業に必要な単位数124単位		
専攻単位数合計		-			-			36単位			6単位		26単位		26単位		26単位		94単位		
2 3 4	前期・後期	通年		数学(2)		微分方程式Ⅰ(2)		級数とフーリエ解析(2)		インタースHIP(2)		情報と職業 2		メディア情報開発 2		映像・音響工学 2		-			
		前期・後期		物理学(2)		微分方程式Ⅱ(2)		ベクトル解析(2)		グローバルテクノロジー論a(1)		情報と職業 2		メディア情報開発 2		映像・音響工学 2		-			
1	前期・後期	通年		物理学(2)		微分方程式Ⅰ(2)		級数とフーリエ解析(2)		インタースHIP(2)		情報と職業 2		メディア情報開発 2		映像・音響工学 2		-			
		前期・後期		物理学(2)		微分方程式Ⅱ(2)		ベクトル解析(2)		グローバルテクノロジー論b(1)		情報と職業 2		メディア情報開発 2		映像・音響工学 2		-			
分野		キャリア形成の基礎			工学の基礎			数理学と教育			基礎		技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数44単位		
キャリア		<p>＜工学部ディプロマ・ポリシー＞</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選択し入れるとともに、科目間の連携を高める体系的なカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</li> <li>継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。</li> <li>必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の基礎知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。</li> <li>実践・実習・探求演習（Project Based Learning、PBL）の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。</li> <li>技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</li> <li>学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。</li> </ol> <p>◆注：「3」4）5）6」を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>																			
アドミッション		<p>電子情報システム工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。</p> <p>（求める人物像）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人</li> <li>電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことにより、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人</li> <li>自ら進んで学ぶという意欲のある人</li> </ol>																			



